

一畑電鉄③ がんばれ！BATADEN

一畑電車は、地域では「**ぼたでん**」との愛称で呼ばれて親しまれているようです。

中でも、各駅名のキーホルダーは、高校生の卒業記念として買い求められており、隠れたベストセラーになっているほど愛されているようです。

島根の映画、3部作の一つとして
錦織良成監督による

「**BATADEN～一畑電鉄物語**」の映画化が企画されているようです。これも地域に密着した電車とそれを愛する人たちの賜物でしょうね。
(鉄道だけで、映画のテーマとなるのことは、鉄チャンにとって嬉しい)

「なぜ？一畑電車を残すのか？」検討委員会

累積赤字がおよそ5億円にまで膨らんで、一旦 鉄道事業からの撤退を決めた一畑電車に対して、鉄道は地域の財産である。！との観点から

- ①一企業の努力で赤字改善するには限界。
- ②地方自治体の適度な関与が必要。
- ③インフラ所有権を移転しない上下分離方式。

④地域住民との連携強化。 などが答申され、およそ3億円以上の負担金を島根県、出雲市、松江市がそれぞれ負担して、地上設備、車両修理費等を補助することにより、山陰地方唯一で島根県の地方鉄道としての「一畑電車」を存続させることになった。

鉄チャンにとっては、うれしい話ですね。

加えて、雲州平田駅あたりから、出雲空港に乗り入れが実現するとともに利便性の高い鉄道になるでしょう。

あわせて、名物の「平地のスイッチバック」を残しながら、直線接続をして運転時間の短縮が図られると、また有名となり集客に結びつくのではないかと期待されます。



一畑電車本社（雲州平田駅）